

生産者にとっての農薬散布と 農薬削減の努力

奈良県病害虫防除所
国本 佳範

1

内容

- 生産者はなぜ農薬を散布するのか
- 生産者は農薬散布をどう思っているのか
- 生産者の農薬削減への取り組み

2



ナスの害虫ミナミキイロアザミウマ

なぜ生産者は農薬散布をするのか？

害虫(ミナミキイロアザミウマ)による食害果実



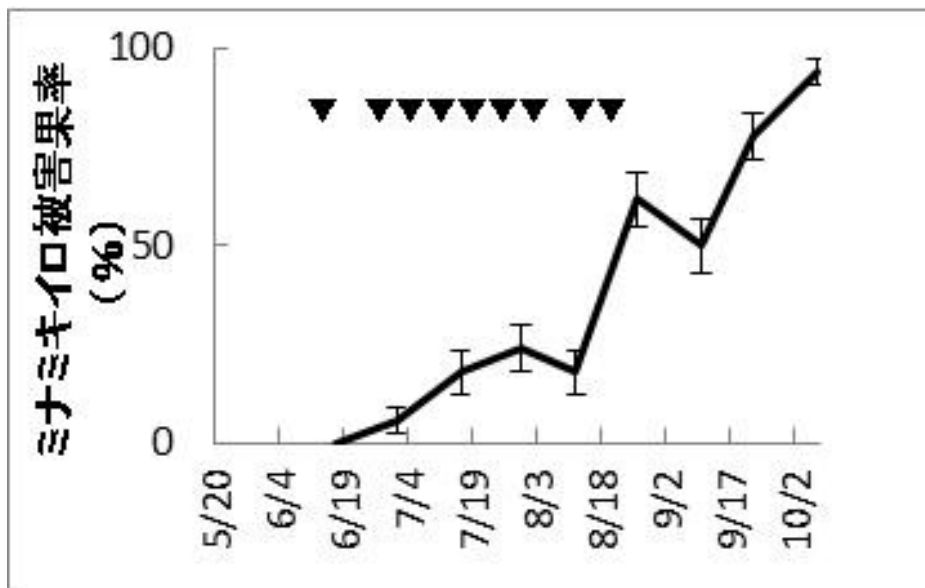
食べるには皮を剥けば支障はないが、B級品としても販売は困難

食害を受けていない果実



外観も美しい果実。価格はこれが基準となり、傷や曲がりにより低下

ナスの被害果実は栽培期間中に増加の一途



被害果実の増加は収入減少に直結

5

他にも露地ナスには多種の害虫



アブラムシ



オオタバコガ



ハスモンヨトウ



ホコリダニ



ハダニ



アザミウマ



ニジュウヤホシテントウ



ハモグリバエ



コナジラミ

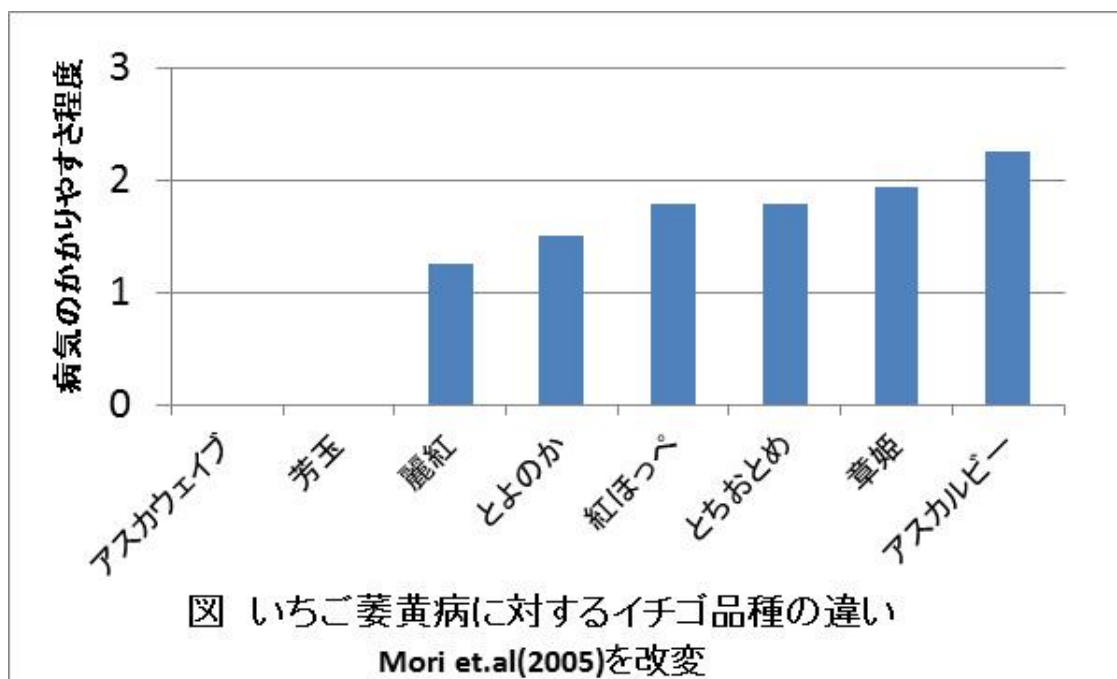


カスミカメ

被害程度には差はあるが、いずれも問題
幅広く対応するには農薬が簡便
過去の被害がトラウマになり、念入りになる

6

おいしい作物は病害虫に弱い



7

農薬散布は生産者にとっても負担

盛夏期の暑さ
長時間の作業

効果は不十分
散布回数増加



生産者の精神的・
肉体的負担大



8

生産者にとっても農薬散布が一番の問題 (1991年アンケート調査)

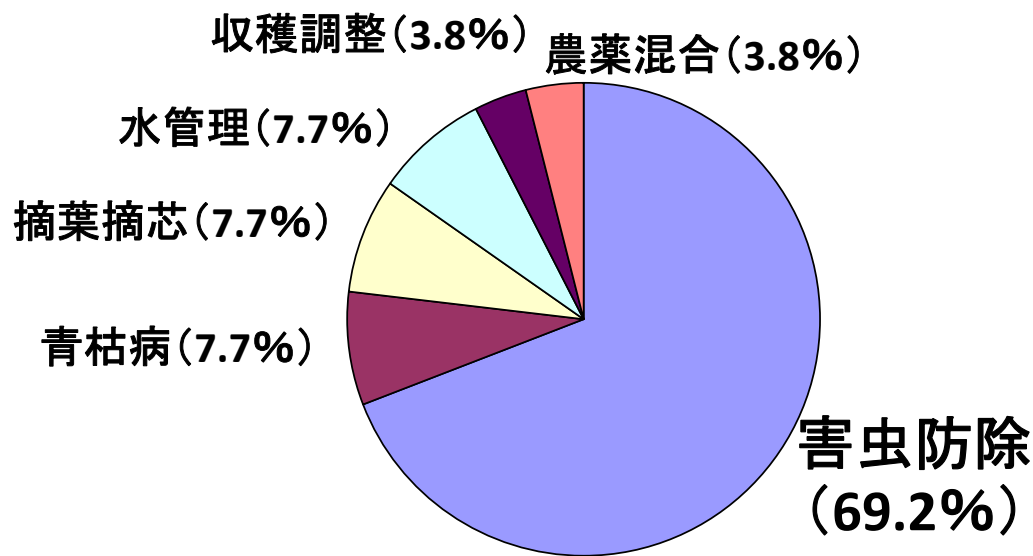


図 ナス生産者が感じるナス栽培上の問題点(n=41)

9

薬剤散布作業中の生産者の感想 国本ら(1995)を一部改変

- 薬液が枝葉から滴り、そこから逃げたい
- 通路に藻が生えて、滑る
- 肩がだるい、腰が痛い
- マスクが苦しい



決して楽しい作業ではない
できれば散布は減らしたい

10

生産者の農薬適正使用努力は 十分か？

平成18年度 農産物中の残留農薬検査結果
(厚生労働省HP)

検査数 3,455,719件のうち

残留農薬基準値超過

0件にならないと

国産

21件(0.003%)

輸入

396件

11

生産者の取り組み

- 農薬を使うときはラベル記載のルールを厳守

農薬取締法に基づき指導徹底、産地の信頼確保

県と協定で使用履歴確認を実施する直売所

生産者も農薬講習会を受講

- できるだけ農薬を使わない防除法

天敵(益虫)を利用して害虫を防除

防虫ネットを利用して害虫を防除

12

天敵温存植物を利用した 露地ナスの害虫防除



土着天敵を保護・増加させて害虫防除

土着天敵に影響の小さい
選択性殺虫剤へ転換



ヒメハナカメムシ類
ミナミキイロアザミウマの
重要な天敵

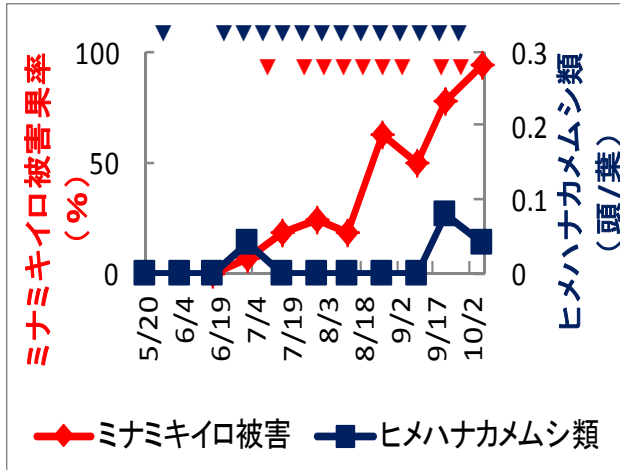
土着天敵が増える植物を
ほ場の周りに植える



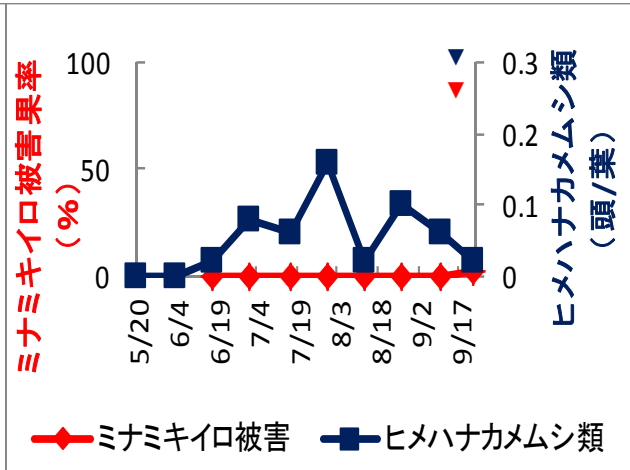
フレンチマリーゴールド
ヒメハナカメムシの
温存場所となる

ミナミキイロ被害に対する天敵保護の効果

慣行防除ほ場



天敵保護ほ場



天敵保護ほ場では、わずかな薬剤散布でも被害抑制

15

奈良県平群町は全国有数の小ギク産地

- 200品種以上の作付け
- 5月～12月の連続出荷
- 露地栽培が主体

近年、オオタバコガの被害が多発



茎頂部を加害するオオタバコガ幼虫

お盆やお彼岸など出荷盛期には
防除作業が困難
慣行の薬剤散布では抑えきれない

オオタバコガ対策
産地から強い要望

16

超簡易ネット被覆法の現地事例



奈良県生駒郡平群町(7a)

殺虫剤散布回数は半減！

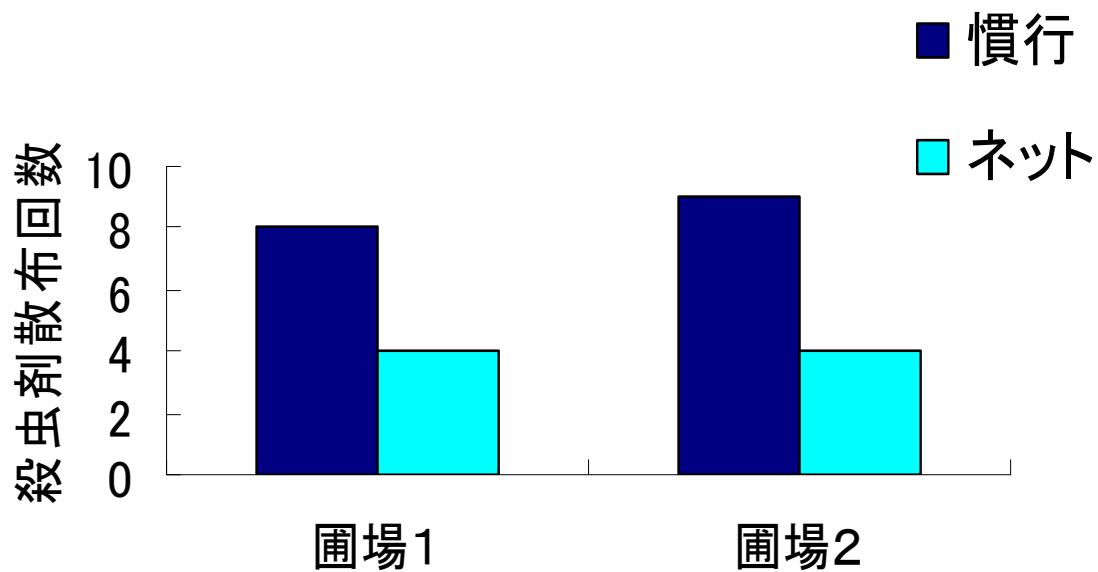
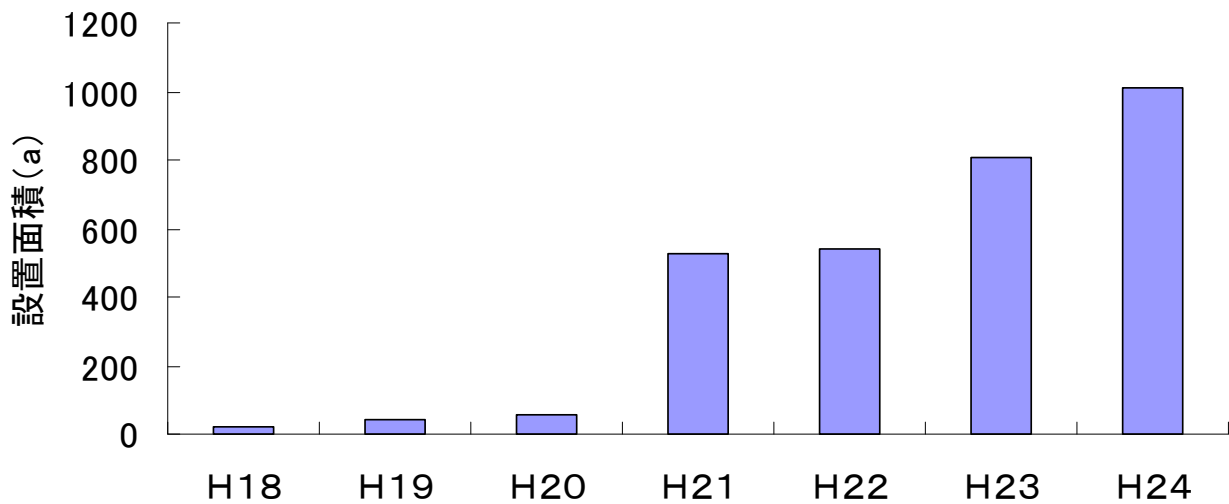


図 慣行栽培とネット被覆栽培での殺虫剤散布回数

簡易なネット被覆法の普及状況



奈良県における超簡易ネット被覆法の普及面積の推移

19

まとめ

- 生産者にとって農薬散布はしんどい作業
- 経営安定のため農薬散布を実施
- 散布時にはラベル記載事項を厳守
- 農薬以外の防除方法も積極的に導入

たとえば、秋田県のリンゴ・草生栽培で天敵の力でハダニへの薬剤散布を0回に

宮崎県のナス・畑周囲に天敵を増やす植物を栽培してアザミウマへの防除を減少 等々

20